

市民公開講座

テーマ

地域医療情報連携による市民サービス

基調講演 1

「地域で連携する医療」から 「生涯にわたる健康電子記録(EHR)」へ

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 地域医療福祉情報連携協議会

田中 博 教授

基調講演 2

オリーブナースをはじめとする かがわ医療福祉総合特区

香川県健康福祉部医務国保課

井下秀樹 課長補佐

入場料無料

日時

2013年10月18日(金)

15:00～ 開 場
15:30～ 第Ⅰ部 基調講演 1
16:00～ 第Ⅰ部 基調講演 2
16:45～ 休憩
17:00～ 第Ⅱ部 上野由恵フルートコンサート
18:30～ 閉 場

会場

サンポートホール高松 3F 大ホール

お問い合わせ：香川大学瀬戸内圏研究センター(担当：青木)
TEL：087-887-4967 FAX：087-887-4967

参考：EHR関連の取組

医療分野におけるICT(情報通信技術)利活用に向けた取組の一つとして、総務省は、平成23年度及び平成24年度に「健康情報活用基盤構築事業」(日本版EHR)を実施し、地域が保有する医療健康情報を安全かつ円滑に流通させるための広域共同利用型のEHRシステムの確立・普及に向けた実証事業を行いました。四国では、香川県において「処方情報の電子化・医薬連携を実現するための情報連携活用基盤構築」事業を実施し、現在は、本事業の成果を、香川県が計画中の「香川県医療情報ネットワーク(仮称)」に活用する方向で検討がなされています。

Program

第Ⅰ部 基調講演

プログラム

テーマ
地域医療情報連携による市民サービス

基調講演 1
「地域で連携する医療」から
「生涯にわたる健康電子記録(EHR)」へ

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 地域医療福祉情報連携協議会
田中 博 教授

基調講演 2
オリーブナースをはじめとする
かがわ医療福祉総合特区

香川県健康福祉部医務国保課
井下秀樹 課長補佐

第Ⅱ部 上野由恵フルートコンサート

ポルムベスク：望郷のバラード
バルトーク：ハンガリー農民組曲より
山田耕筰：赤とんぼ、中国地方の子守唄
ドップラー：ハンガリー田園幻想曲ほか

第I部 基調講演 (講演概要)

東京医科歯科大学 難治疾患研究所
地域医療福祉情報連携協議会
田中 博教授

<所属・役職>
東京医科歯科大学大学院 疾患生命科学研究所システム情報生物学教授
医学博士、工学博士
<学歴・職歴>
1981年 東京大学医学系大学院博士課程修了 医学博士
1982年 東京大学 医学部 講師
1983年 東京大学工学系大学院より 工学博士
1982年 スウェーデン ウプサラリンシェーピング大学客員研究員
1987年 浜松医科大学 医学部附属病院 医療情報部 助教授
1990年 米国マサチューセッツ工科大学 客員研究員
1991年 東京医科歯科大学 難治疾患研究所 生命情報学 教授
1995年 東京医科歯科大学 情報医学センター センター長 併任
2003年 東京医科歯科大学大学院 疾患生命科学研究所 教授へ異動
2006年 東京医科歯科大学大学院
生命情報科学教育部教育部長・大学評議員併任
現在に至る
<主な受賞歴>
1985年 木村栄一賞(日本心電学会)
1993年 最優秀論文賞(日本医療情報学会)
2008年 情報通信功績賞(情報通信月間推進協議会)
<主な公職・その他>
2011年 地域医療福祉情報連携協議会 会長
2011年 情報計算化学生化学会(CBI学会)学会長
2011年 総務省健康情報活用基盤構築事業
日本版EHR事業推進委員会 委員

医療の情報(IT)化とは、患者の診療記録を電子化(デジタル化)して、診療の質を向上させることです。これまでは具体的には「電子カルテ」として、受診病院での診療の情報基盤となってきました。これは、我が国の医療が1961年の国民皆保険の導入以来、単独の病院での治療/健康復帰を基本とする「病院完結型医療」の「無連携な集まり」であったからです。この体制で我が国の医療が国民の健康を守るという責任を果たせたのは、我が国の経済が高度成長期にあり、また「若い人中心の国」であったことによります。



しかし、1991年にバブルが崩壊し、また同時に高齢化率も急上昇し、我が国は「超低成長・超高齢化社会」に突入しました。2000年代の中頃に入ってから、医療費の激しい抑制政策、戦中戦後育成医師の世代的退職や新研修医制度の導入による医師不足、超高齢化による慢性疾患の急速な増大が重なって、地方の自治体病院の閉院・休院が続き「地域医療の崩壊」ということが叫ばれるようになりました。このような状況を立て直し、医療を再生するために唱えられたのが、希少な医療資源である地域の病院・診療所が連携して患者の診療を受け持つ体制、すなわち「地域連携型医療」です。医療ITは、地域医療連携において、患者の診療情報を地域で共有する情報ネットワークなど情報基盤として不可欠な役割を果たしています。ここ香川でも「かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)」が、震災のあった東北でも「みやぎ医療福祉情報ネットワーク(MMWIN)」が稼働しています。

最近ではより狭い圏域(日常生活圏域:中学校区に相当)で、往診医や訪問看護・介護などの多職種連携を通じた、地域包括ケアが目指され、医療ITも、ワイアレス通信で中央のコンピュータとつながったタブレット型PCの利用、すなわちモバイルクラウド情報基盤を提供しています。

これからの医療ITの目標は何でしょう。それは、これらの地域医療連携や地域包括ケアの情報基盤を結合して、国民一人ひとりの生涯にわたる電子化健康医療記録、すなわち国際的にはElectronic Health Record(EHR)と呼ばれている全国的な健康医療情報基盤を実現することです。このことによって、国民が自らの健康医療状態について認識を得て、慢性疾患重症化・要介護状態への移行を防ぐ、生涯の健康リスク管理を実践することが可能になります。

香川県健康福祉部医務国保課
井下 秀樹 課長補佐

香川県は全国に先駆けて医療の情報化に取り組んでおり、平成15年には、全県的医療ネットワークである「かがわ遠隔医療ネットワーク K-MIX」がスタートしています。K-MIXの運用開始以降、産学官連携体制のもと、ドクターコムや地域連携クリティカルパスの電子化、電子処方箋システムの構築など、先駆的な取り組みが進んでおり、K-MIXには、現在、県内外あわせて119の医療機関が参加しています。

香川県は、これまで蓄積してきた地域資源を活用して、医療のICT化をさらに推進するとともに、離島・へき地の医療・福祉の確保や環境改善、さらには県内全域の医療水準の向上を目標として、平成23年「かがわ医療福祉総合特区」の地域指定を受けました。かがわ医療福祉総合特区は、「遠隔医療・医療連携」「くすり・医薬連携」「救急・災害医療」「福祉」の4分野からなり、医師の遠隔指導によってスキルアップされた看護師(オリブナース)が行う在宅医療の推進や、遠隔での服薬指導を利用した患者宅での薬の交付など、国や各事業者との協議を行いながら、事業を進めているところです。

これらの医療・福祉分野における新しい取り組みは、島しょ部・へき地に限らず、今後、さらなる高齢社会へと向かうことが推定される我が国において、全国的な課題となっている人口減少・少子高齢化を克服する医療・福祉のモデルとなることを目指しています。

全国でも珍しい全県レベルで一体となった医療ICTを活用した香川県独自の取り組みの全体像と現状、今後の展望を紹介します。

共催 後援 香川大学、総務省四国総合通信局、四国情報通信懇談会ICT研究交流フォーラム、
香川県、高松市、経済産業省四国経済産業局、日本産婦人科医会、香川県医師会、香川県歯科医師会、香川県薬剤師会、香川県看護協会、徳島文理大学、四国旅客鉄道、NPO法人BHNテレコム支援協議会、NPO法人e-HCIK、四国新聞社、宮脇書店、ヤマハミュージックリテイリング高松店、HCIF

会場案内

所在地 〒760-0019 高松市サンポート2-1
高松シンボルタワー・ホール棟2階
会場お問い合わせ TEL:087-825-5000(平日9:00~17:30)
FAX:087-825-5040

- 交通のご案内**
- JR高松駅から徒歩3分
 - ことでん高松築港駅から徒歩5分
 - 高松港から徒歩2分
 - 高松自動車道高松中央ICから国道193号経由で約20分
 - 高松空港からことでん空港リムジンバスJR高松駅行き約40分



サンポートホール高松
GoogleMap